

サイバー大学2023年春学期提供科目一覧

【全学部対象】

教養科目

番号	科目名	単位数	科目概要
1	ITによる知的生産術	1	コンピュータの処理速度とデータの蓄積技術が向上する一方で、情報はデジタル化され、インターネットを通じて世界の隅々まで駆け巡るようになった。デジタル化された情報は、私たちの仕事や産業のあり方、そして生活のしかたを変えようとしている。本科目では、近年進展を見せるITを使った情報の生成、検索、保管、共有の一連の流れについて学び、知的生産者としての情報の扱い方を身に付けることを目的とする。
2	キャリア入門	1	本科目では次世代を見据えたキャリア形成のありかたを社会人基礎力(「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」)を中心に考察して、大学で学ぶことの意義の再確認と自身のキャリア設計を考える機会を提供する。特に既存の業界フレームワークにとらわれないことと新しいビジネス領域を切り拓くビジネスプロデュース力を身に付けるための考え方などを習得する。
3	セルフマネジメント論	1	セルフマネジメントとは、学習や仕事において高い生産性をもたらすための自己管理の手法である。セルフマネジメントを実践することにより、効率化を実現し、他者からの評価を高め、自己ブランドを確立し、継続的に有益な情報を発信できることが期待される。本科目では時間管理や目標設定、進捗管理の考え方を学び、さらにキャリアやスキル開発、将来の人生設計を考えるために必要なビジネスマインドを育成する。さらに、異分野とのコラボレーションを通じてイノベーションを起こせる人材になるために必要なものの考え方についても学ぶ。
4	コミュニケーション論	1	グローバル化とIT化の波により、私たちのコミュニケーションは大きく変容しつつある。異国にいる外国人と、インターネットを介してコミュニケーションする。そんな場面もはや当たり前となりつつある。とはいえ、コミュニケーションの基本自体は変わっていない。着ている洋服やジェスチャー。それもまた重要なコミュニケーションであり、見過ごされがちだが、軽視できない。これらにより誤解を与える事さえある。本科目では、コミュニケーションの基本を押さえつつ、それを日々どう活かしていくか、自分の伝えたい事をどのように相手に理解してもらうかを学んでいく。
5	ロジカルシンキング	1	ビジネスの世界では、いろいろな局面で「情報を収集・整理・構造化する思考」が求められる。本科目は、このような思考を「ロジカルシンキング」と捉え、状況整理、課題分析、問題解決を行う局面に用いることを想定し、その考え方や手法を学ぶ。具体的には、ロジカルシンキングに則った頭の働かせ方をスムーズに行えるようにするため、図(主にツリー図、ベン図、マトリクス図、点グラフ、フロー図)を活用した思考技法を身に付ける。
6	リーダーシップ概論	1	本科目では、「求められるリーダーの人材像と発揮できるリーダーシップは、市場や社会環境、組織の状況によって変化する」、「リーダーとは、どのような環境、場面においても、成果を出すことに焦点をあてた意思決定と行動でチームを導く意志、覚悟を持った人材」という考えを前提にして、リーダーが持ち合わせるべき発想法、問題発見と解決方法、マネジメント手法、リーダー自身のあるべき姿(姿勢や態度)について学習する。また、これらをスキルとして身に付けるために習慣化すべき思考や行動を学ぶことで、組織におけるリーダーが持つべき最低限の素養を習得することを目指す。
7	キャリアデザイン	1	キャリアデザインとは、多様な価値観が存在する社会環境の中で、仕事を通じて自己の能力と個性を最大限に発揮し、結果として社会貢献につながるような豊かな職業生活をどう築くかを考えることである。年功序列や終身雇用が崩壊し、所属する組織任せのキャリア開発が機能しなくなった昨今、自らのキャリア形成に個人が責任を持つ必要がある。本科目では、自己のキャリア形成を主体的に考え、その方向性を決定し、グランドデザインを描き、時代が求める人材になるための社会人基礎能力を高めるための考え方を学ぶ。
8	Webデザイン入門	1	日常生活でよく目にするWebページやブログ、SNSなどの画面は、見た目の美しさやオリジナリティだけではなく、使いやすさやデザインされている。優れたデザインにはセンスのみならず、利用者にとって使いやすいするためのロジカルな要素が重要である。本科目では、Webデザインの重要な要素であるレイアウト、色彩配色、文字のデザイン、PCとスマートフォンでのデザイン手法の違いなどについて学習し、その良し悪しを評価できるスキルを身に付けることを目標とする。
9	ファイナンシャル・プランニング入門	1	ファイナンシャル・プランニングとは、個人の収入や支出の内容、資産と負債、保険などのデータを集めて分析し、夢や希望を叶えるための人生設計を行うことである。本科目では、将来の公的年金の不安への対応方法、保険の加入や見直しの注意点、資産の考え方、住宅ローンと賃貸の比較など、「生活」に関わる「お金」の知識を修得する。また、家計の支出の問題点を見つけ出すスキル、さらに将来の資金計画の基礎を学び、自分や家族との生活の中で生きていく知識として活用できることを目指す。
10	我々の宇宙	1	我々が生きているこの宇宙はどのように生まれ、どのような構造をもって進化してきたのだろうか？宇宙の誕生、星の一生、太陽系の進化などについて概観し、さらには地球のような生命が住める惑星はどのようにできたのか、系外惑星系の発見など最新の成果を踏まえながら、講義する。
11	暮らしの中の物理学	1	雪の結晶はなぜ「六角形」なのか、水中ではなぜ物がぼやけて見えるのか、冷蔵庫の中はどのようにして冷えるのか、食べ過ぎるとなぜ太るのかなど、身近な自然現象や身の回りの事象はすべて物理学の法則に従っている。本科目では、こうした暮らしの中の「物理学」を通して、難解な数式や専門用語を用いずに理解し、科学的センスを養うことを目的とする。また、講義を理解するために必要な物理学の基礎事項は、すべて講義の中で説明する。
12	化学入門	1	化学は、環境・エネルギー、エレクトロニクス、健康・医療等、多岐にわたる分野で重要な役割を果たしている。本科目では、発電と蓄電や液晶ディスプレイ等、身近な現象や製品を題材に、基礎的な化学の知識や考え方について学ぶとともに、環境問題や健康問題等、現代社会の各課題を化学的なアプローチで解決していく可能性を理解する。また、化学の本質である「分子」を中心とした考え方を学ぶことで、物事を表面的に捉えるだけでなく、よりミクロな視点でその構造から理解しようとする姿勢を身に付けることを目的とする。
13	地球科学入門	1	「地球科学」は、地球を構成する岩石や大気、海洋などの物質や、それらの相互作用を理解し、地球上の諸現象を明らかにする学問である。また、現在だけでなく、過去の地球環境を研究対象とすることで、将来の環境変化の予測ができる。本科目では、地球の姿とそのダイナミクスがもたらす地震や火山噴火のメカニズム、大気と海洋による地表環境の支配、地球環境と生命の誕生・進化について、初学者向けに平易な言葉を使用して講義する。本科目を通じて、地球環境と調和した持続的な人間社会を築くために必要な基礎知識を修得することを目指す。
14	物理学入門	1	本科目では、物理学の基礎(力学・熱・電磁気・光)に焦点を絞り、日常生活で目にする素朴な現象を物理の視点から見直す。複雑な数式や法則は極力避け、最も基本となる概念と考え方を、平易な言葉で解説する。その繰り返しを通じて、日常の生活と物理学との密接な関わり合いを実感するとともに、進展著しい先端科学技術の基礎を担う「物理学的なモノの考え方」に触れる。さらに、普段目にする様々な現象をトピックとして取り上げることで、見慣れた日常の中から新しい課題・問題を発見する力を養う。
15	脳科学入門	1	生命科学の領域では21世紀は脳科学の世紀と言われており、様々な研究が進められている。また、人工知能が脳科学の知見を利用することで急速に進歩してきている。本科目では脳の重要な仕組みである、五感が生じる仕組み、情動と記憶・学習の仕組み、体内の恒常性を維持する仕組み、ストレスが脳を傷つける仕組み、意思を決定する仕組みを理解するとともに、人工知能との関係について学ぶ。そして、今後起こりうる人工知能と脳科学の進歩について探究する。
16	健康管理入門	1	近年、健康管理への関心は一段と高くなっているが、自分自身に合致した方法を理解した上で、実践できているだろうか。本科目では、健康管理に関する三大要素と言われる運動・栄養・休養を軸に、メンタルヘルス対策やパソコンデスクワークによる疲労の解消法など、職場環境におけるテーマもとりあげて、自身の健康状態をコントロールするためのポイントや注意点について学習する。世の中に溢れる様々な健康管理に関する情報の中から、自分に合った正しい知識を身に付けて、健康で豊かな社会生活を過ごすための習慣を養うことを目的とする。
17	人工衛星入門 ～宇宙の総合エンジニアリング～	1	昨今、100kg未満の超小型人工衛星を利用した事業の拡大により、通信や地球観測、気象などの様々な分野で社会への人工衛星の貢献が注目されている。本科目では、人工衛星に関する基本知識として、企画立案から打ち上げ・運用・廃棄までの流れと技術的背景を学ぶとともに、人工衛星を取り巻く昨今の状況や利用上の課題を踏まえて、今後の宇宙開発・利用の可能性を探求する。人工衛星について学ぶことで、工学的知識の獲得のみならず、新事業立ち上げや社会インフラ構築など、広い視野で総合的に技術と社会との関わりを理解することが期待できる。
18	防災論入門	1	経済成長に伴う開発や気候変動によって、近年は災害被害が増加しており、中でも高齢者などの弱者が最も被害を受けている。本科目では、国内外での災害の現状や原因、災害弱者・格差について、事例を交えて概要を理解するとともに、事前の準備、緊急対応、復旧復興といった防災サイクルについて知識を修得する。ダムや堤防などのハード対策、防災教育や避難などのソフト対策、災害からの復興のあり方に関する課題を認識した上で、一人一人が災害に備えるために必要な知識を身に付ける一助としたい。
19	医療・ヘルスケアとIT	1	昨今のITの著しい進展は、日本の医療・ヘルスケア分野においても活用が進み、サービスの利便性の向上や革新的な治療の発展に貢献している。具体的には、カルテを含む医療情報システム、医療データや画像データ等を管理するデータベース、AIによる医療サービスの効率化、3Dプリンタによる医用画像の立体出力、遠隔医療、IoTを活用したヘルスケア等が挙げられる。本科目では、こうした医療・ヘルスケア分野へのITの応用事例を様々な媒体を通じて学習することにより、ITを活用した問題解決力を養う。
20	心理学入門	1	本科目では、心理学の初学者を対象に、心理学の基礎的事項を網羅的に講義する。心理学は、人の心に関する科学的な学問であり、実は私たちの様々な生活の部分に深く関連するため、専門家になろうと思わない人でも、ある程度心理学に精通しておくことよい。本科目を通して自分及び他者が、どうしてそのように考えるのか、どうしてそのように振る舞うのか、どうしてそのような印象を与えるのかということについて、より良い理解を深め、洞察できるようになることを目的とする。
21	日本文学入門 ～文化と歴史から学ぶ～	1	現代の生活や文化は、過去からの連続性を有しており、突如として現れたわけではない。歴史の流れとともに、文学作品も変化していくが、今も昔も人は同じように喜怒哀楽を表現している。本科目は古事記、日本書紀に始まり、平安・鎌倉・室町時代から江戸時代、そして明治から現代に至るまでの文学作品を広く扱い、日本文学の基本的な知識を身に付けるとともに、歴史的変遷を通して、日本の文化と人間を理解することを目的とするものである。

	日本の伝統芸能	1	日本の伝統芸能は、渡来の文化や日本古来の歴史・自然・宗教を豊かに取り込み、いまも日本人の生活のあらゆるところに息づいている。本科目では、まずこうした伝統芸能の世界に広く親しみ、能楽(能・狂言)、文楽、歌舞伎等についての基礎知識を教養として身につけることを目指す。同時に、第一線で活躍する演者や伝統芸能を支える人々へのインタビュー映像、教員自身のフィールドワークの成果を通じて、伝統芸能の現代日本社会および海外との関わりや将来的な展望について理解することを目的とする。
22	世界遺産でたどる日本の歴史	1	本科目では、日本国内に所在する世界文化遺産のうち、主なものについて詳しく解説する。国際化が進む現代社会において、日本を世界に紹介するために、日本の歴史や文化について自信をもって語ることが強く求められている。そのような状況に対応するため、本科目では写真や図を多く用いながら、各文化遺産を構成する諸要素の見どころを説明していく。また、文化遺産それぞれの歴史を学習することを通じて、仏教文化を中心とする日本文化の特徴と歴史の流れを理解することを目標とする。
23	和食文化論	1	本科目では、日本の伝統的な食文化である和食文化に焦点をあて、その特徴と成り立ちについて講義する。和食文化を特徴づける具体的な食材、調理法、料理、盛り付け、作法などの事例紹介を豊富に取り入れる。食文化をとらえるには、歴史的な時間軸と地域特性をふまえた空間軸のふたつの視点が必要となる。本科目では、このふたつの視点を通して和食文化の概要を理解し、世界が注目するWASHOKUについて説明できる力を養う。
24	西洋音楽史	1	なぜ西洋音楽は、これほど世界中に広まったのか？それを知ろうとすることはすなわち、西洋文化の特質と、その受容の歴史を紐解くことに他ならない。中世からの長きにわたる西洋音楽の歴史を紹介しつつ、宗教や哲学に深く根ざした西洋人のメンタリティに触れる。今日の私たちにもなじみ深い音楽作品の数々が生まれるに至った経緯を探り、音楽をはじめとする芸術を媒介にした西洋文化への広い理解へと導いてゆく。
25	「使いやすさ」の心理学 ～デザインとユーザビリティ～	1	開けにくいドア、間違えやすい入カシステム、使い方がわからないホテルのシャワーなど、私たちの周りには、「使いにくい」モノがあふれている。モノやシステムの使いやすさや使うことによる満足感を意味するユーザビリティは、私たちの日常にも深く関わっており、工学や心理学の分野を中心に重要な研究対象とされている。本科目では、モノやシステムのデザインとユーザビリティの関係について、実際の例を挙げつつ心理学的視点から講義する。最終的には、モノやシステムの開発において、「使いやすいデザイン」「使って楽しくなるデザイン」とは何かを判断できるようになることを目的とする。
26	宗教学入門	1	宗教は、さまざまな文化圏に属する人々が長年培い、育んできた文化である。それは、彼らの世界観や倫理観の枠組みでもあり、世界の急激な変化を理解するうえで欠かすことのできない重要な要素である。本科目では、仏教・キリスト教・イスラーム教を中心にその基本的な教義や活動を学び、翻って日本人の宗教観の理解に繋げるとともに、ニュースで報じられる世界情勢の宗教的要因や異文化への理解を深めることを目的とする。
27	西洋建築 歴史の旅	1	例えば、旅行でヨーロッパの古い建物に出会う時、何をどう見たら良いのだろうか。先入観を持たずに鑑賞し、自分の感性を信じて解釈することも大切ではあるが、建物の成り立ちを知っていれば、その建物がどのような思考や社会的背景のもとで建てられたのかについて、より深く理解することができる。本科目では、西洋における古代から現代までの建築の長い歴史を豊富な画像を通じて辿り、建物を読み解くことの楽しさを知ることで、ものごとの本質を追究する力を養う。
28	日本の心と異文化理解	1	「日本文化」として海外ではサムライ、茶道、アニメ、和食などが紹介される。これらは一見無関係なものに見えるが、成り立ちや特徴に注目すると、そこには共通する「日本の心」が見え隠れする。本科目では、このような視点から、日本文化を形作る生活様式、芸術や道徳観を広く考察する。講義では、西洋文化との違いや海外での「日本」のイメージを解説し、「日本」を客観視できる力を身に付ける。最終的には、受講者がグローバル社会で積極的に日本からの視点を発信しつつ他者と共存する、その思考と実践の端緒となることを期待する。
29	企業環境学 —企業経営と環境取り組み—	1	地球環境問題を真正面から捉えた、これからの企業経営のあり方について、環境問題全般の理解を深め、国の環境政策、環境法規、企業の実際の行動、今後の課題などを検証し、これからの望ましい企業経営姿勢、さらには社会のあり方について考察する。
30	メディア情報文化論	1	人間とはコミュニケーションする動物である。初歩的な記号表現(言葉や映像)から複雑なテクノメディア(写真・電話・テレビ・パソコン・モバイル端末など)に至るまで、人間はこれまで様々なタイプのコミュニケーション手段を考案してきた。人間にとってコミュニケーションとは不可避であり、それなしに文化的活動を営むことはできない。本講義では、あらゆるコミュニケーションを何らかの媒体によって仲立ちされた「メディア・コミュニケーション」として位置づけ、記号論・メディア論・メディア史・コミュニケーション論の知見を横断しながら、現代的なコミュニケーション環境における人間と文化のあり方を考えていく。
31	社会学入門	1	社会は、私たちが日々接する集団や組織、そして人間同士の関係から形成されている。社会学とは、こうした人間や集団からなる社会を主な研究対象として、その仕組みやはたらきを解き明かし、浮き彫りになった問題と向き合い、よりよい社会を展望する学問である。本科目では、基本的な社会の捉え方を理解した上で、常識に捕われずに自ら考え、建設的な問題意識と多角的な視野を持てるようになることを目的とする。具体的には、私たちに身近な「本音と建前」を社会学的に捉え直し、また、「いじめ」や「差別」、「デマの流布」、「ネット上での『炎上』」等を取り上げながら進めていく。
32	ソーシャルメディア概論	1	人的ネットワークが、ネット上で新たに形成される時、ソーシャルメディアは今までと違った新たなメディア価値を生み始めている。事業者側が伝えたいことよりも、ユーザー側が新たに経験したことのほうが事象として伝播していく。21世紀のメディアも、モバイルメディアへの統合化が進み、手のひらからソーシャル全般へと、情報の流れさえもドラスティックに変化を遂げる。そのようなソーシャルメディア時代の本質は「正直さ」であり、インターネットの登場から20年以上が過ぎ、ようやくこれらがインターネットの本物の進化と出会う時代といえる。本科目では、人類がいまだかつて経験したことのないコミュニケーションの新たな歴史を考察するために、現代のソーシャルメディアの活用事例について概観する。
33	社会保障入門	1	社会保障の仕組みは固定的でなく、その時々々の社会情勢等の影響を受け、常に更新を繰り返している。そのため社会保障の各制度は複雑に見られがちであるが、一つの幹に、時代に合った要素が付加されてきたという構造を把握することで、本質を理解することができる。本科目では、年金、医療保険、介護保険などの各種社会保険制度を扱うことに加え、定年延長、生活保護や少子化の問題など、現代的なトピックを織り交ぜながら、「生活者」の立場で知っておくべき社会保障の知識を身につける。
34	スポーツビジネスのしくみ	1	衛星放送やインターネットを通じて、コンテンツが瞬時に世界を駆け巡るスポーツの世界は、ビジネスのグローバル化の縮図ともいえる。サッカーやバスケットボールなどのプロスポーツが世界中で大きなビジネスとして浸透しているなかで、日本のスポーツ界はどう舵を取るべきなのか。本科目では、グローバル化がスポーツ興行に与えている影響力とともに、スポーツが経済社会に与えている影響力を学び、日本のスポーツ・コンテンツのあるべき姿を模索したい。
35	コンビニ経済学 ～コンビニを見たら日本が分かる～	1	日本のコンビニは世の中のニーズとウォンツに合わせて常に進化し続けており、世界一効率的なリアル小売業となっており、日本国民の生活インフラとしても定着している。本科目では、コンビニの店長から商品企画まで手掛けた経験のある担当教員ならではの視点から、コンビニにおける商品開発、取引制度、労働環境、物流と宅配、フランチャイズ等について現場に即した講義を行う。コンビニの仕組みを学習することで、日本の流通の現状を理解し、AI・IoTを活用した未来の流通の姿を探る。
36	写真・映像制作の基礎	1	デジタル技術の興隆によって、メモを取るように撮影しソーシャルメディアなどを通して共有することが日常化している。それに伴い、写真や映像に関連する知識や技能が求められている。本科目では、写真や映像の歴史を概観し、撮影のための基礎知識＝カメラやレンズ、光と色、構図法、デジタル加工・編集の基礎を講義する。写真や映像について学ぶことで「ものごとの見方」の幅を広げ、身の回りに溢れる“イメージ”を再発見し、写真や映像を媒介としたコミュニケーションを充実させる力を養う。
37	人間社会と感染症の歴史	1	本科目では、古代から現代に至るまでの人間社会の歴史のなかで感染症がどのような影響を及ぼし、また人々からどのように受け止められてきたのかを概観する。具体的には、ペストやコレラの世界的な感染爆発(パンデミック)の事例や、流行が一度で収束せず地域内で周期的に繰り返すようになった場合の事例を取り上げる。また、ハンセン病のように病気が差別と結びつく場合についても論じる。それによって、医学史、社会史、文化史という複数の視点から感染症と人間社会のかかわりについて理解し、将来の感染症との向き合い方を考える基礎力を養う。